

ロシアによるウクライナ侵攻から間もなく10か月が経とうとしています。今回、横浜に避難し、横浜YMCAで日本語を学びながら、避難しているウクライナの人びとの支援に携わるアリナ・ホドスさんに、来日以降の日々を振り返りメッセージをいただきました。

【アリナさんからのメッセージ】

私は4月10日に日本に来ました。私の日本への道のりはブダペストから始まりました。そこから叔母と従兄弟と3人でフランクフルト行きの飛行機に乗り、乗り継ぎをして、合計17時間かけて日本に到着しました。ウクライナを出発してから、とても複雑で5日間もかかる長い道のりでした。

4月からは横浜に住んでいます。日本に避難した理由は、私の叔母が7年前に日本に住んでいて、日本語を少し話すことができたからです。叔母は横浜が好きで、友人もたくさんいるので、ここに来ることにしました。

最初は分からないことだらけで、スーパーに行くにも、街の中心部に行くにも、誰かの手助けが必要でした。しかし、日本の人はいつでも助けてくれたり、アドバイスをしてくれたりするので、私は困ることはありませんでした。言葉が通じなくても、どの人にも助けてもらいました。

横浜YMCAの日本語学校で勉強を始められたことは、日本での生活を知るための最初のステップとなり、本当に助かりました。授業は単に言葉を学ぶだけでなく、日本の文化や伝統、コミュニケーションの取り方なども教えてくれるので、文化の全く異なる新しい国での生活を始める私にとって、とても役に立っています。日本語の勉強は大変ですが、面白いことでもあります。先生たちは毎回の授業で、新しい文法や単語について詳しく説明し、私を助けてくれました。漢字の勉強もしていますが、これはほとんどの学生にとって一番難しいところです。また、そこでの多くの良い出会いにより、孤独を感じずにいられました。



その後、横浜YMCAで、横浜に避難してきたばかりのウクライナの人たちのために働くようになりました。YMCAで働くことで、新しい人と出会い、これまで学校で学んだすべてのスキルを実践する機会が増えたように感じます。仕事を始めるのは、日本で初めてバスに乗るようなものでした。ファイル名に使われている漢字から、コミュニケーションのルールまで、何もわからない状態でした。でも、初めてバスに乗った時と同じように、YMCA



のスタッフ全員が私を助けてくれました。私が何度説明を聞いても理解できないときは、みんないつも我慢強く、繰り返し教えてくれました。1ヶ月後、もう一人のウクライナ人が私たちのチームに加わりました。それ以来、仕事でもウクライナ語を話す機会が増え、2倍楽しくなりました。



横浜での生活にはほぼ慣れましたが、それでも毎週新しいことに出会います。日本は大好きですが、できるだけ早く帰国して、家族や友人に会いたいです。今、ウクライナでは毎日停電があり、インターネットや携帯電話を充電するための電気が不足しているため、家族や友人と連絡を取ることが難しくなっています。そのため、メッセージの返信がないたびに不安になり、会いに行きたいと思うようになりました。

日本には、まだ行ったことがない場所がたくさんあります。日本の文化、伝統、言語はとても興味深いので、旅行しながらもっと学びたいと思っています。京都、静岡、鎌倉を訪れ、仕事と語学の勉強を続けたいと思っています。

日本のみなさん、横浜市、そして日本全体が、私を含めて多くのウクライナ人たちにしてくれたことすべてに、とても感謝しています。今後、もっと多くの人にこの国の美しさ、日本人の優しさを知ってもらいたいと思います。

(翻訳：横浜YMCA／2022年12月8日)



横浜YMCAウクライナ支援募金（第3次）



日本に避難しているウクライナの人びとの日本国内での生活の支援、教育機会の提供、コミュニティづくりの支援に用いられます。

Amazonみんなでサンタクロース



少ない荷物で日本に避難してきたウクライナのみなさんに、暖かい毛布を贈るプロジェクトです。
(実施は12月23日までとなります)

横浜YMCAでは、侵攻直後から緊急支援募金をスタートし、世界に広がるYMCAと連帯して支援活動を展開してきました。また横浜市と連携してウクライナから避難してきた人びとの支援活動に取り組んできました。避難生活が長期化する現在、就労や教育など生活支援を中心とした長期的なサポート、ユースや子どもの成長の機会をサポートする活動を行っています。

お問い合わせ：横浜YMCA 国際・地域事業

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7

kokusai@yokohamaymca.org